

男女共同参画市民意識調査 結果報告書



令和6年3月

蕨市

目 次

調査概要

1 調査目的	2
2 調査の方法	2
3 調査項目	2
4 回収結果	2

調査結果

(1) 意識	2
(2) 家庭生活	4
(3) 地域活動	6
(4) 職場	8
(5) 社会参加	10
(6) 女性の人権	11
(7) 女性の活躍の推進	12
(8) 防災	13
(9) 性の多様性	14
(10) 男女共同参画の取組	16
(11) 回答者の属性	18
(12) 自由意見	19

○調査概要

1 調査目的

男女共同参画についての意識や実態を把握し、「蕨市男女共同参画パートナーシッププラン（第3次）」策定の基礎資料とするために実施

2 調査の方法

- (1) 調査対象：住民基本台帳に記録された18歳以上の市民1,000人
- (2) 調査方法：行政連絡員を通じて配布し、調査用紙は郵送で回収
- (3) 調査期間：令和5年5月12日～6月23日

3 調査項目

- (1) 意識 (2) 家庭生活 (3) 地域活動 (4) 職場 (5) 社会参加
- (6) 女性の人権 (7) 女性の活躍の推進 (8) 防災 (9) 性の多様性
- (10) 男女共同参画の取組 (11) 回答者の属性 (12) 自由意見

4 回収結果

配布件数	回収件数	回収率
1,000	334	33.4%

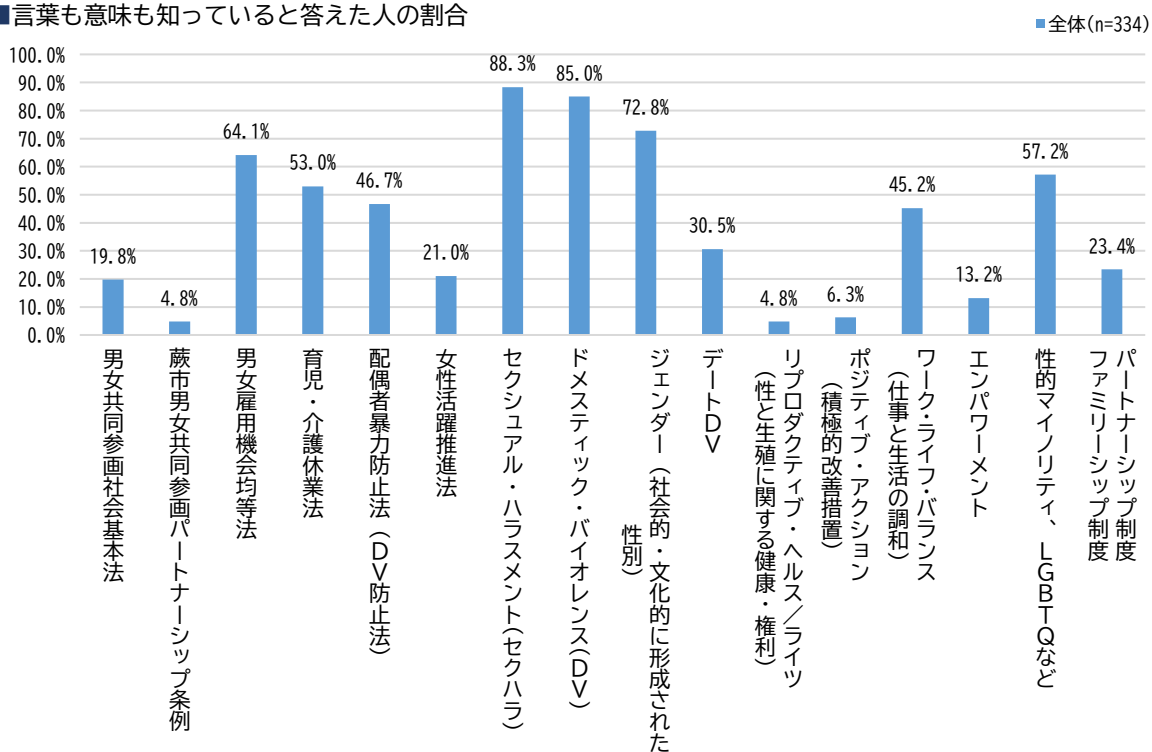
○調査結果

(1) 意識

①男女共同参画に関わる言葉の認知

男女共同参画に関する言葉について、「言葉も意味も知っている」という回答が最も多かったのは、「セクシュアル・ハラスメント」で88.3%、次いで「ドメスティック・バイオレンス」で85.0%でした。

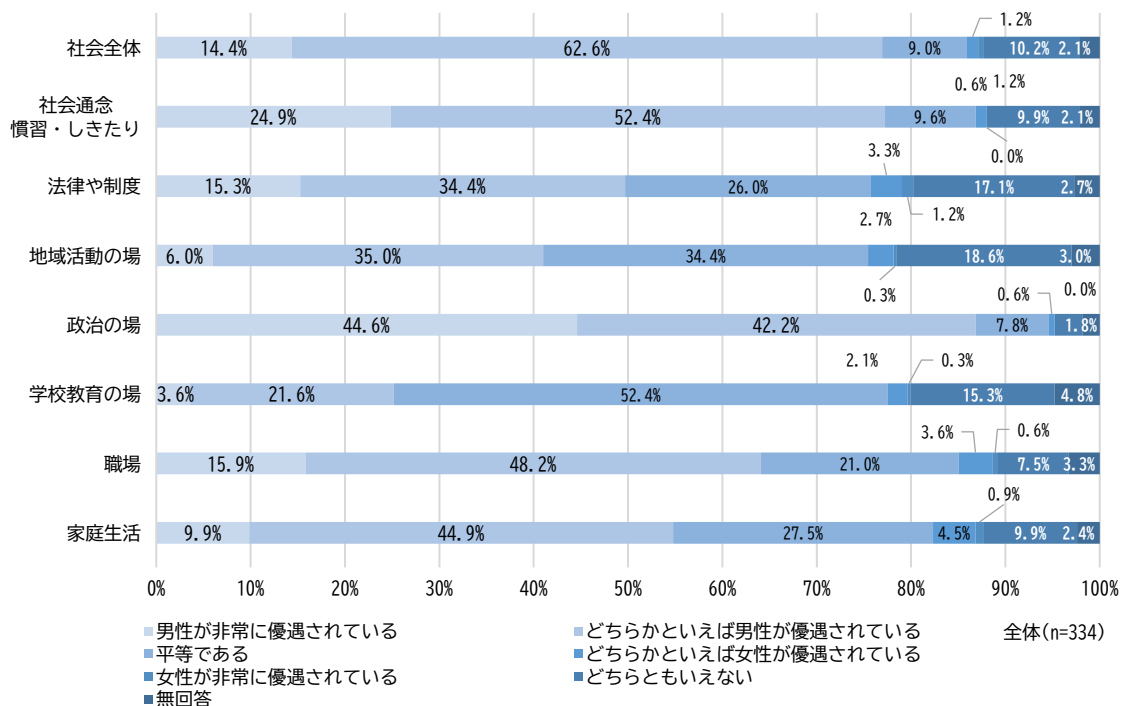
■言葉も意味も知っていると答えた人の割合



②男女の平等感

各分野で男女の平等感を聞いたところ、“平等”と答えた人の割合が最も高くなったのは「学校教育の場」でした。どの分野も男性の方が高い割合で“優遇されている”と感じられており、特に「政治の場」の分野では、“男性が非常に優遇されている”と“どちらかといえば男性が優遇されている”への回答率が合わせて 86.8%と最も高くなっています。

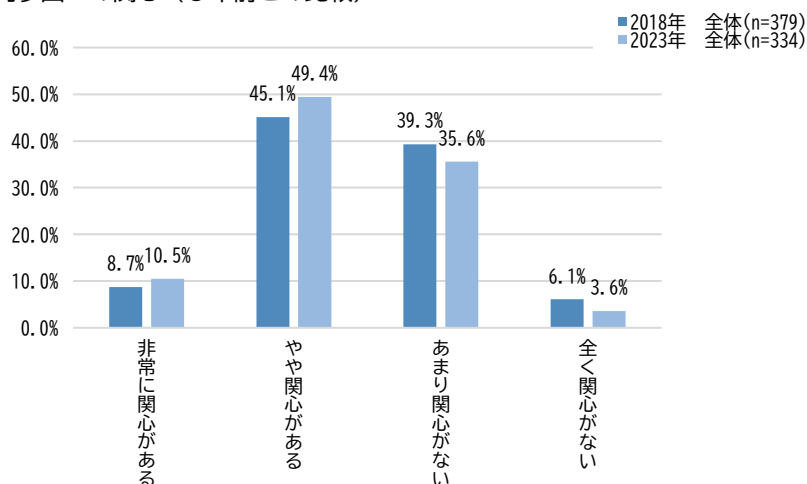
■各分野における男女の平等感



③男女共同参画の関心度

男女共同参画への関心は、“非常に関心がある”が 10.5%、“やや関心がある”が 49.4%、“あまり関心がない”が 35.6%、“全く関心がない”が 3.6%となっています。2018年の調査と比較すると、関心がある人が微増しています。

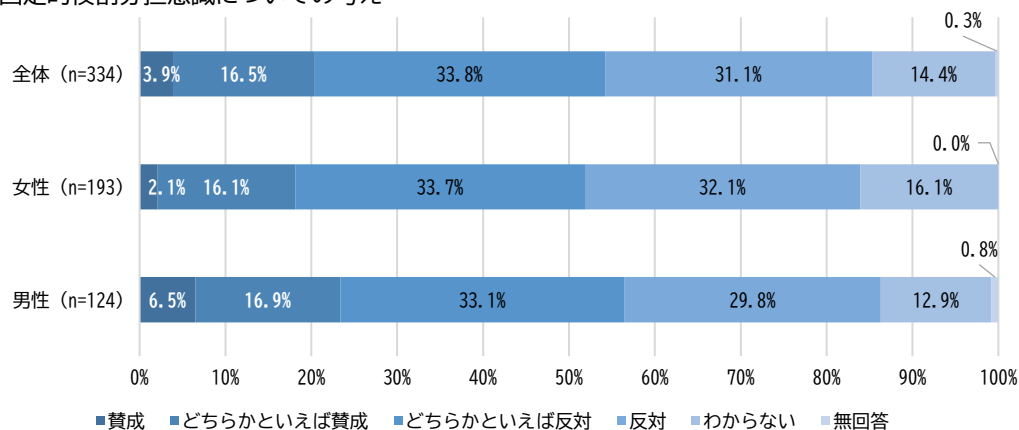
■男女共同参画への関心（5年前との比較）



④固定的性別役割分担意識

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という固定的性別役割分担意識について、「賛成」と回答したのは3.9%、「どちらかといえば賛成」が16.5%、「反対」は31.1%、「どちらかといえば反対」が33.8%となりました。男女別では「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計が、男性では23.4%が、女性では18.2%が賛成となっています。また、「反対」と「どちらかといえば反対」の合計は、女性では65.8%が、男性では62.9%が反対となりました。

■固定的役割分担意識についての考え

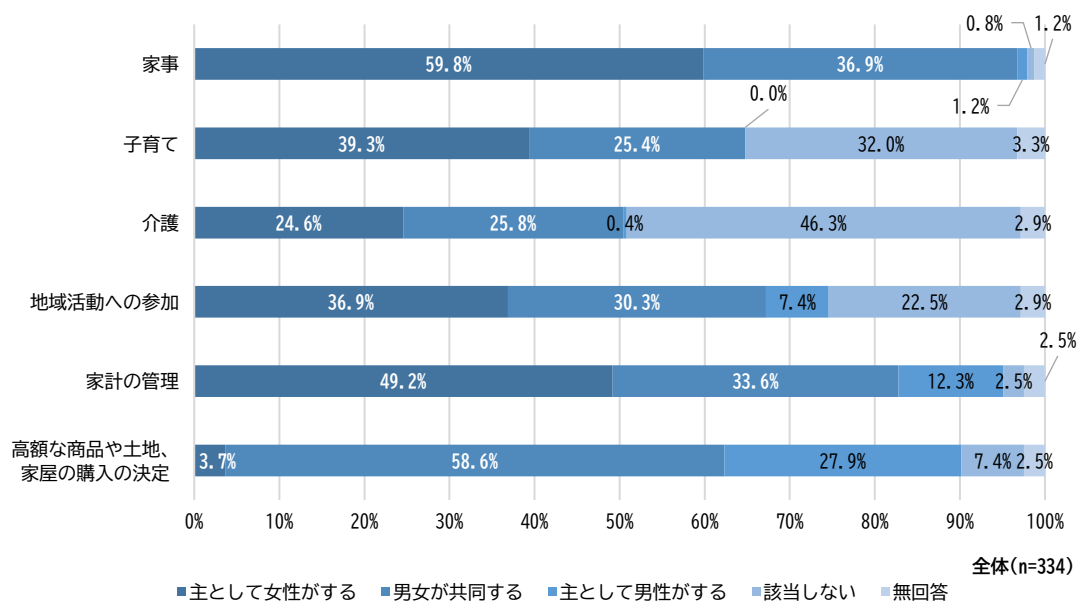


(2) 家庭生活

⑤家庭での役割分担

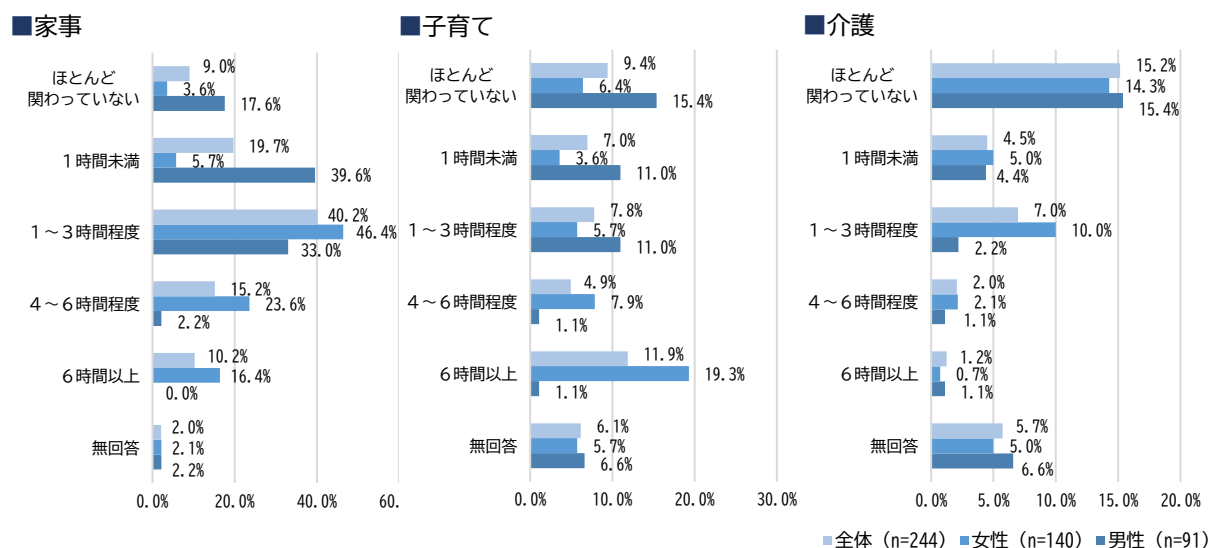
家庭での役割分担について、各選択肢で最も割合が高くなったのは、「主として女性がする」では“家事”で59.8%、「男女が共同する」では“高額な商品や土地、家屋の購入の決定”で58.6%、「主として男性がする」では“高額な商品や土地、家屋の購入の決定”で27.9%でした。

■家庭での役割分担



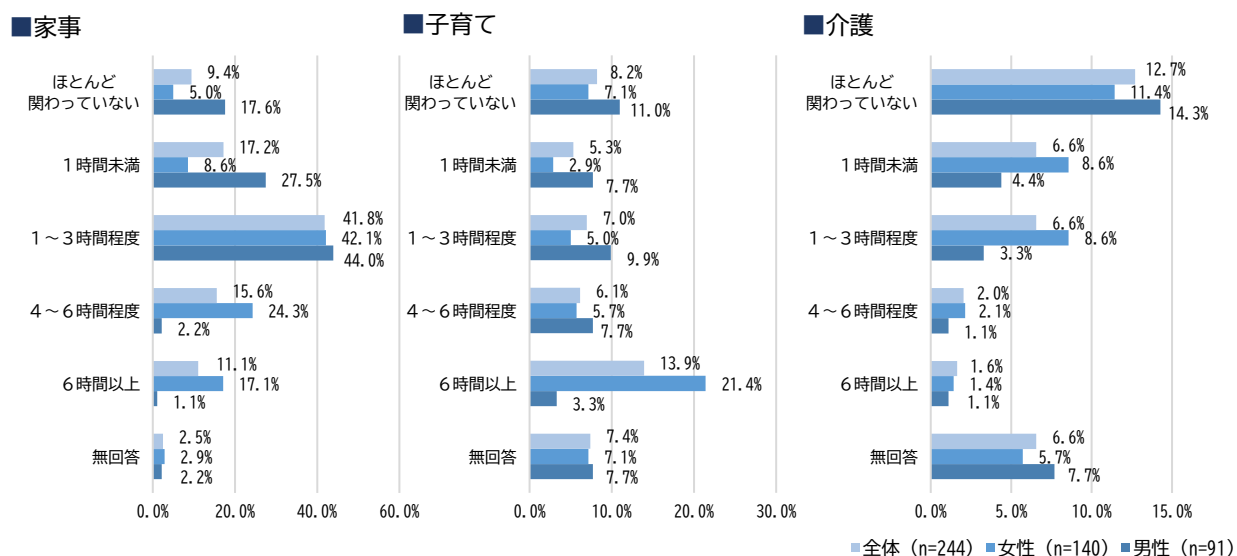
⑥家事・子育て・介護時間

○家事・子育て・介護に関わる時間（平日）



配偶者やパートナーのいる人に聞いたところ、平日の結果（※）を男女別でみると“家事”で最も多いのは女性が「1～3時間程度」で46.4%、男性が「1時間未満」で39.6%、“子育て”で最も多いのは、女性が「6時間以上」で19.3%、男性が「ほとんど関わっていない」で15.4%、“介護”で最も多いのは、男女ともに「ほとんど関わっていない」で、女性が14.3%、男性が15.4%でした（※「該当しない」を除く）。

○家事・子育て・介護に関わる時間（休日）

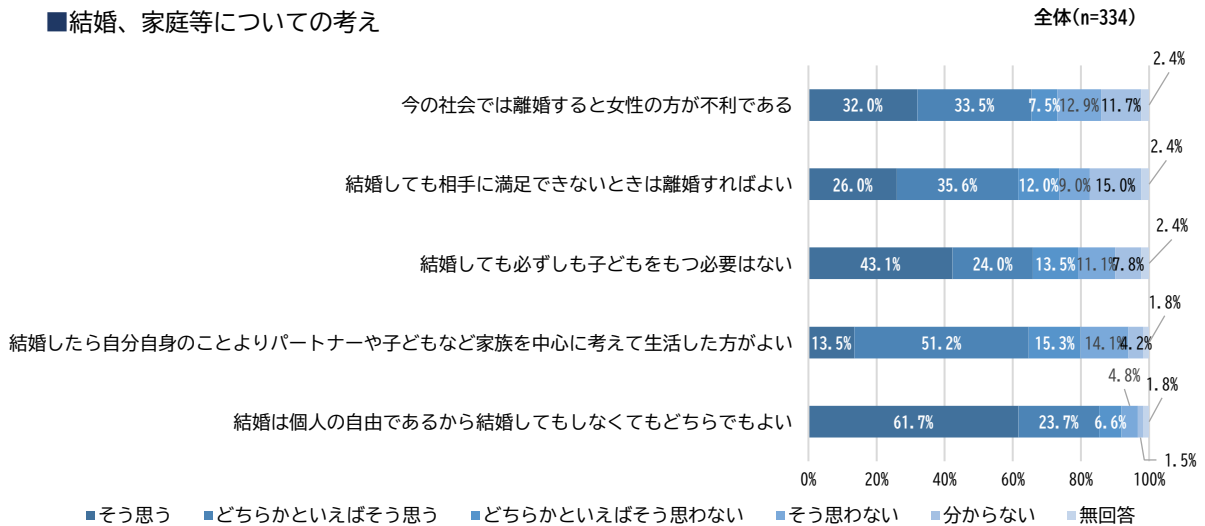


配偶者やパートナーのいる人に聞いたところ、休日の結果（※）を男女別でみると“家事”で最も多いのは男女ともに「1～3時間程度」で、女性が42.1%、男性が44.0%。“子育て”で最も多いのは、女性が「6時間以上」で21.4%、男性が「ほとんど関わっていない」で11.0%。“介護”で最も多いのは、男女ともに「ほとんど関わっていない」で、女性が11.4%、男性が14.3%でした（※「該当しない」を除く）。

⑦結婚観

どの設問においても、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を足した賛成の割合が半数を超える結果となりました。中でも、“結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい”の問いでは「そう思う」が61.7%、「どちらかといえばそう思う」が23.7%、合わせて85.4%となり、賛成の割合が最も高くなる結果となりました。

■結婚、家庭等についての考え

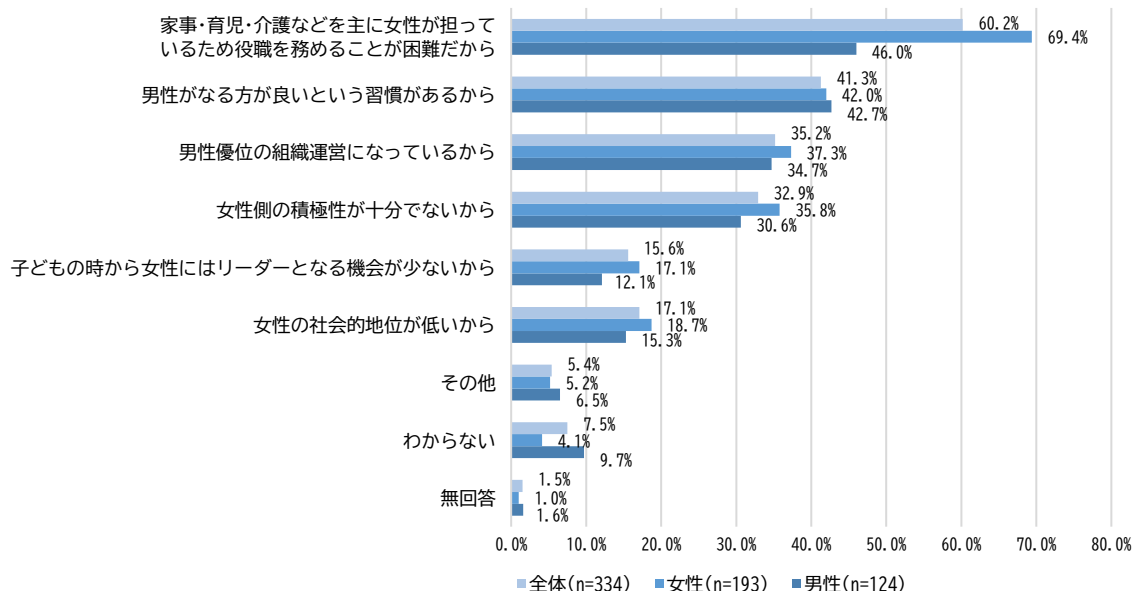


(3) 地域活動

⑧地域活動において役職に就く女性が少ない理由

地域活動において役職に就く女性が少ない理由について、最も多い回答は男女ともに「家事・育児・介護などを主に女性が担っているため役職を務めることが困難だから」でしたが、女性が69.4%、男性が46.0%と23.4ポイントの差がありました。次いで「男性になる方が良いという慣習があるから」、「男性優位の組織運営になっているから」、「女性側の積極性が十分でないから」で、男女別に見ても順位は変わりませんでした。

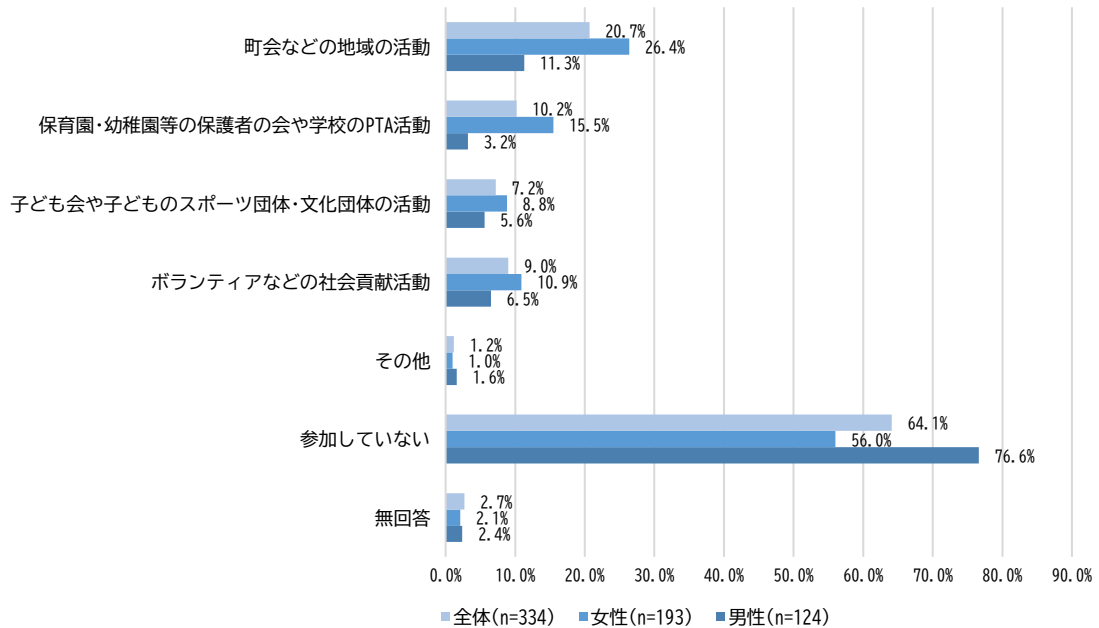
■地域活動において役職に就く女性が少ない理由



⑨地域活動への参加

地域活動については、男女ともに「参加していない」が最も多いですが、参加した活動について男女別に見ると、女性で最も多いのは「町会などの地域の活動」で26.4%、次に「保育園・幼稚園等の保護者の会や学校のPTA活動」が15.5%となりました。また、男性で最も多いのは「町会などの地域の活動」で11.3%、次に「ボランティアなどの社会貢献活動」が6.5%となりました。

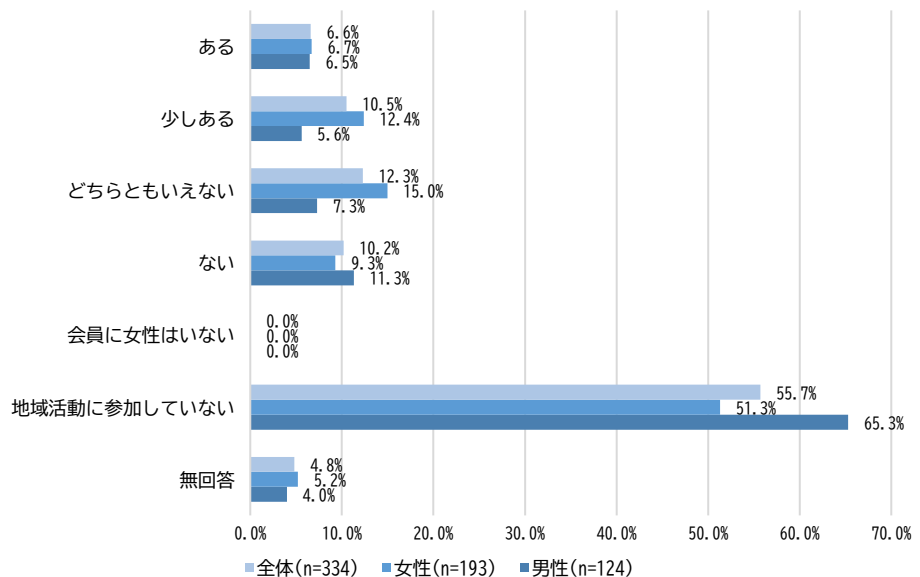
■1年間のうちに参加した地域活動



⑩地域活動における性別役割分担

「男性は中心的な仕事、女性は庶務や雑用」など、性別による仕事の分担があるか聞いたところ、「地域活動に参加していない」を除いた中で、割合が最も高くなったのは、女性が「どちらともいえない」で15.0%、男性が「ない」で11.3%となりました。

■性別による仕事分担があるか

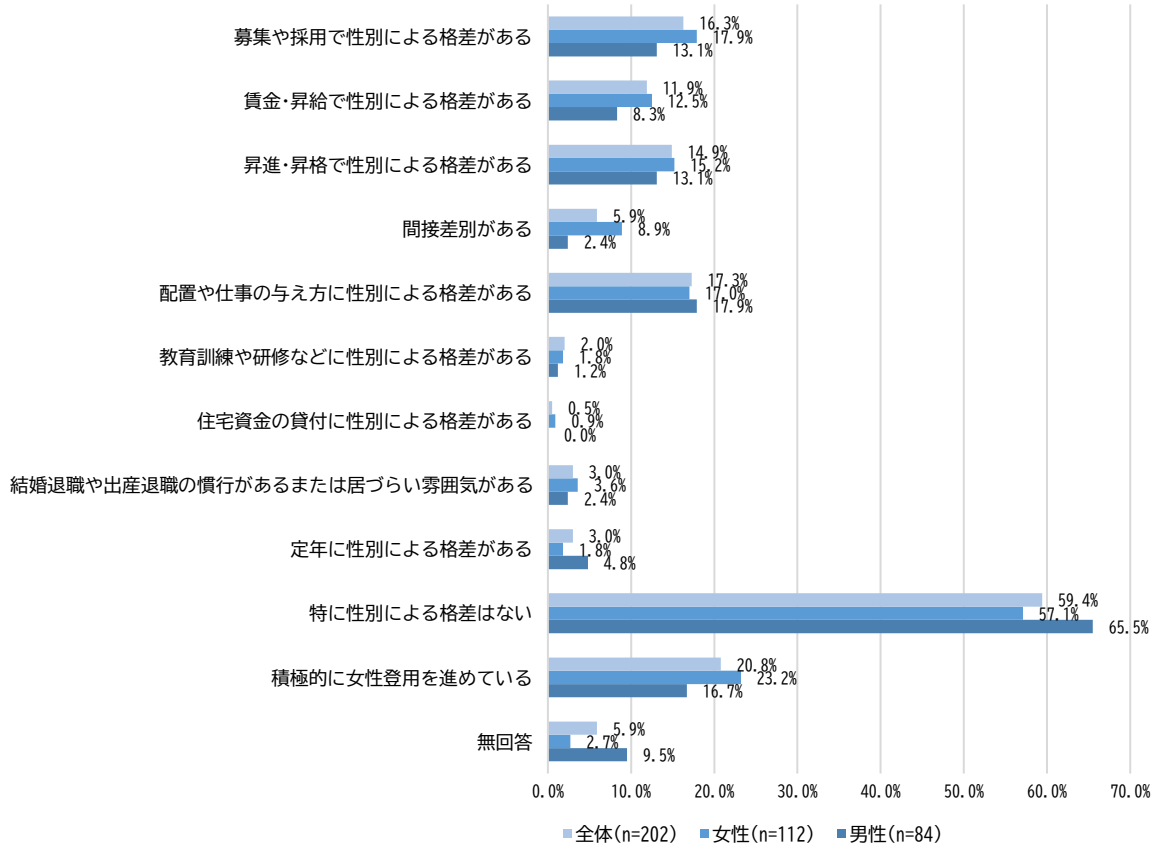


(4) 職場

⑪職場での性別格差

現在仕事をしている人に、職場での男女格差について聞いたところ、男女ともに「特に性別による格差はない」が最も多く、「積極的に女性登用を進めている」が次に多い結果となりました。

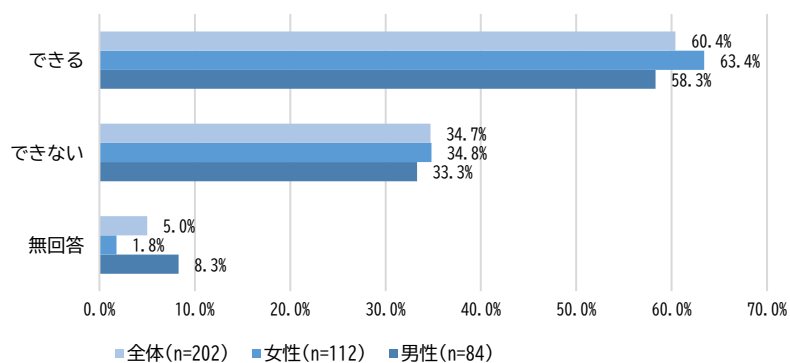
■職場において性別による格差があるか



⑫育児・介護休業制度の利用

現在仕事をしている人に、育児休業や介護休業制度が利用できるか聞いたところ、全体で60.4%が「できる」、34.7%が「できない」との回答になりました。利用が「できる」「できない」を男女別で見ると、男女ともに「できる」と答えた人が多く女性は63.4%、男性は58.3%となりましたが、男女で5.1ポイントの差が生じました。

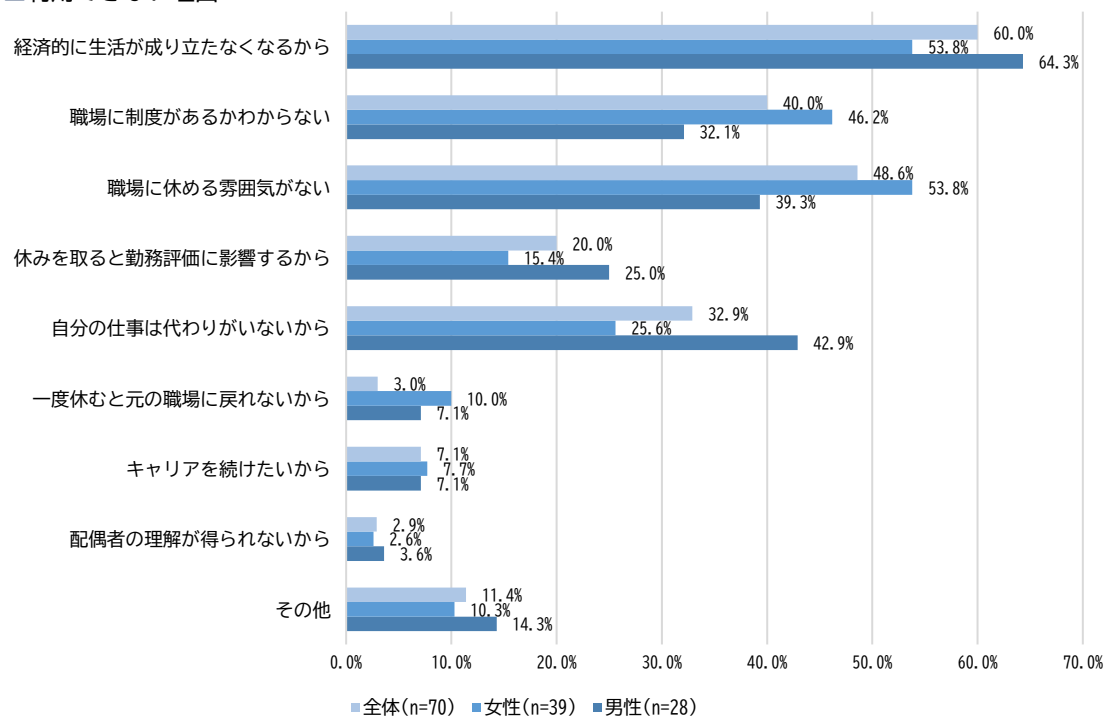
■休業制度の利用



⑬休業制度を利用できない理由

前問で利用が「できない」と回答した人にその理由を尋ねると、女性は「経済的に生活が成り立たなくなるから」と「職場に休める雰囲気がない」が最も多く 53.8%、男性は「経済的に生活が成り立たなくなるから」で 64.3%となっています。

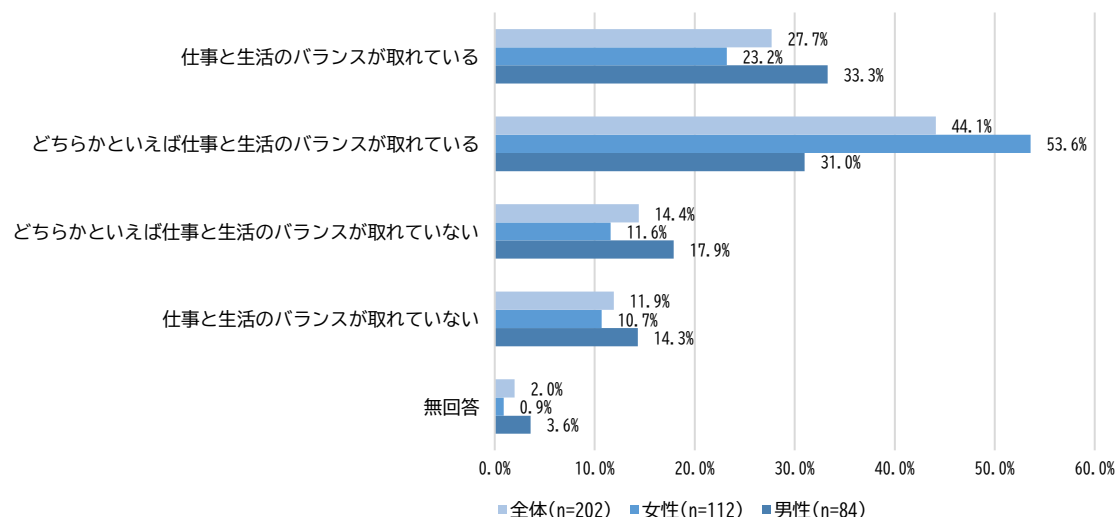
■利用できない理由



⑭ワーク・ライフ・バランスの実現

現在仕事をしている人に、ワーク・ライフ・バランスの実現について聞いたところ、全体では「どちらかといえば仕事と生活のバランスが取れている」と回答した人の割合が最も多く 44.1%となりました。女性で最も多かったのは「どちらかといえば仕事と生活のバランスが取れている」で 53.6%、男性で最も多かったのは「仕事と生活のバランスが取れている」で 33.3%となりました。

■ワーク・ライフ・バランスの実現

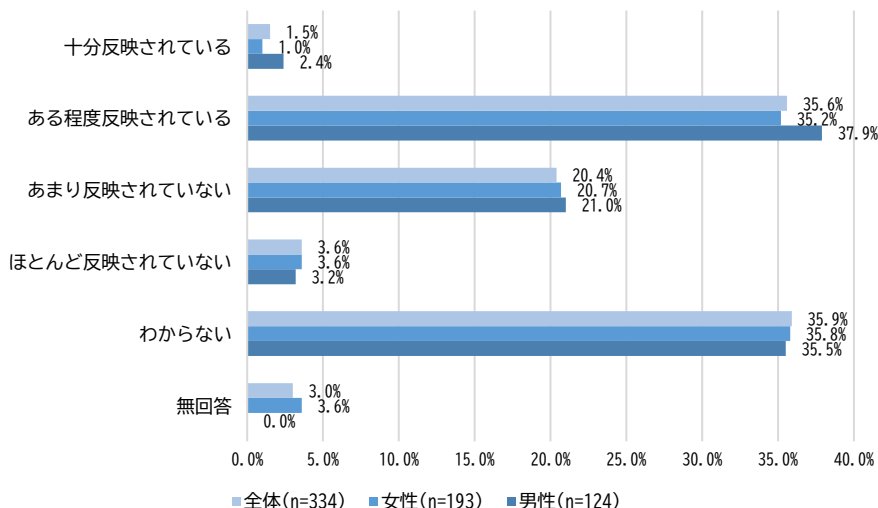


(5) 社会参加

⑮女性の意見の反映

地方自治体の施策に女性の意見などが反映されているかについて、女性で最も高い回答が「わからない」で 35.8%、僅差で「ある程度反映されている」が 35.2%でした。男性で最も高い回答は「ある程度反映されている」で 37.9%でした。

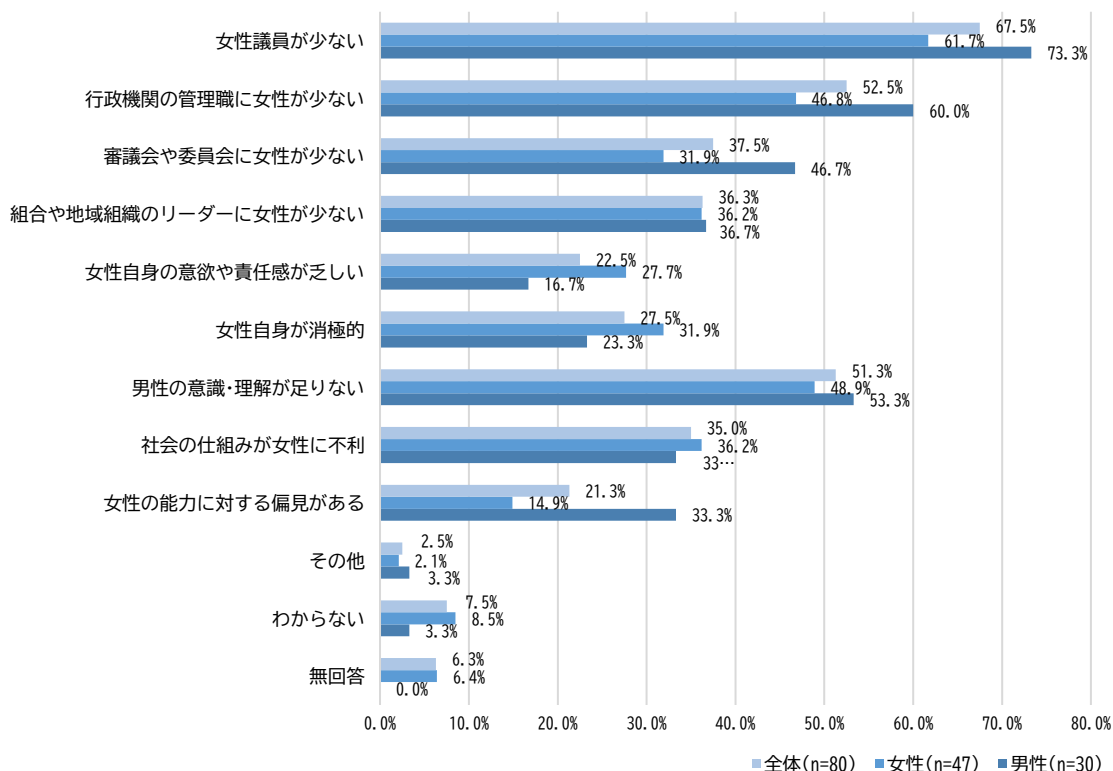
■ 地方自治体に女性の意見は反映されているか



⑯女性の意見が反映されていない理由

前問で「あまり反映されていない」、「ほとんど反映されていない」と答えた人にその理由を聞いたところ、最も高くなったのは男女ともに「女性議員が少ない」で女性が 61.7%、男性が 73.3%でした。男女差が最も大きかったのは「女性の能力に対する偏見がある」で、女性が 14.9%に対し男性は 33.3%と、18.4 ポイント開きがありました。

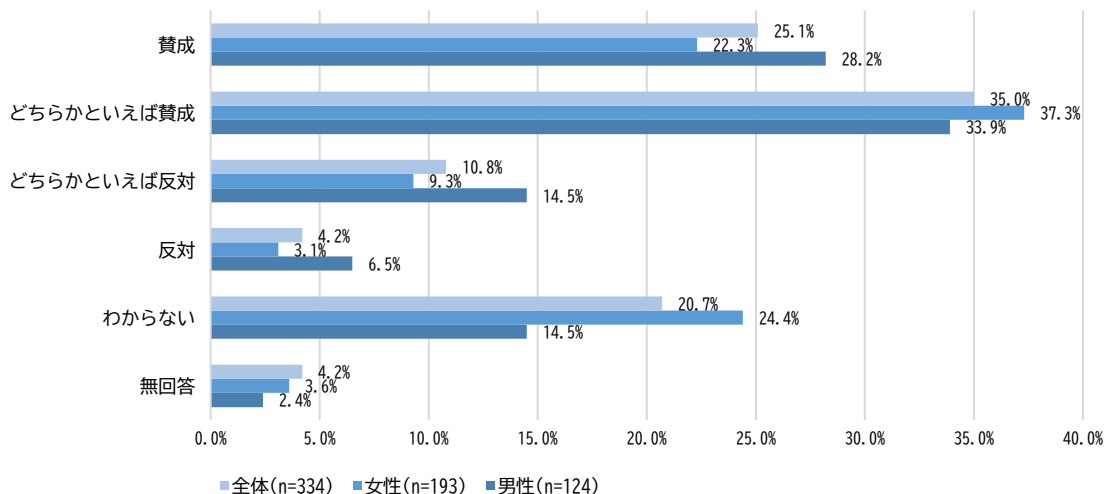
■ 反映されていない理由



⑰ ポジティブ・アクションについての考え

ポジティブ・アクションについて、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を足した割合は男女ともに半数を超えましたが、「反対」と「どちらかといえば反対」を足した割合は、女性は12.4%に対し男性は21.0%と8.6ポイントの開きがありました。

■ ポジティブ・アクションについての考え方

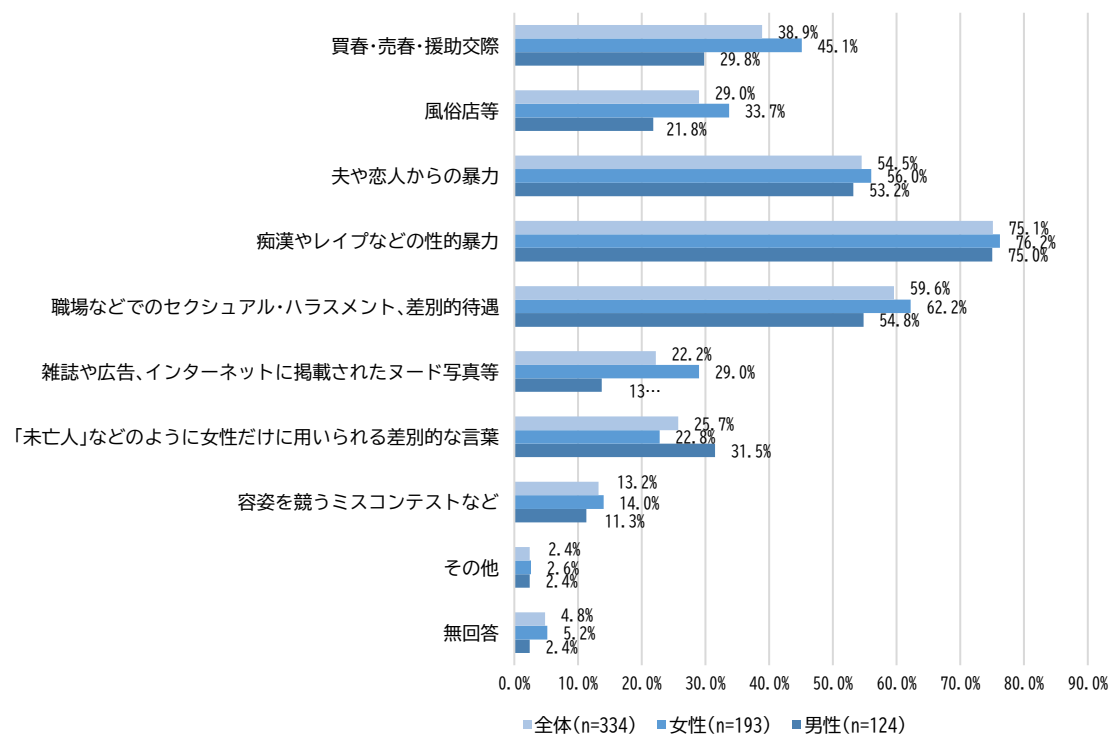


(6) 女性の人権

⑱ 女性に対する人権侵害

女性の人権が侵害されていると感じることについて、最も多かった回答は「痴漢やレイプなどの性的暴力」、次いで「職場などでのセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇」、「夫や恋人からの暴力」となっています。男女で最も差があったのは「買春・売春・援助交際」と「雑誌や広告、インターネットに掲載されたヌード写真等」で両項目とも15.3ポイントの開きがありました。

■ 女性の人権侵害とを感じるもの

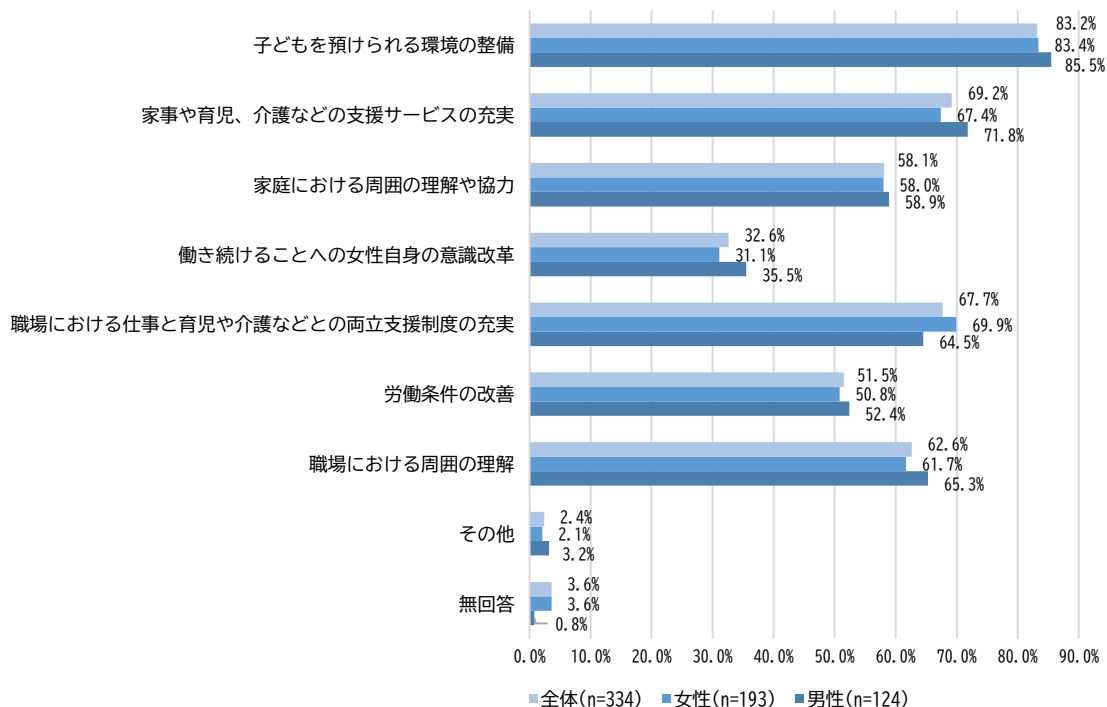


(7) 女性の活躍の推進

⑨女性の活躍の推進

出産後も女性が働き続けるために必要だと思うものについて、最も多かった回答は「子どもを預けられる環境の整備」で、女性が83.4%、男性が85.5%となりました。

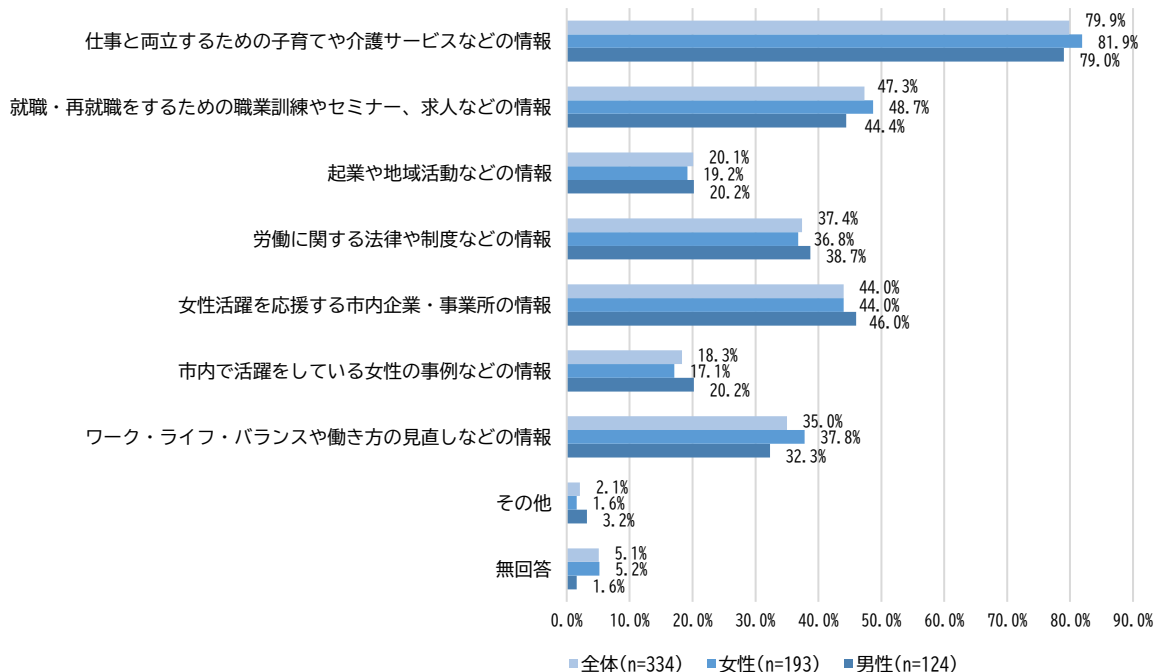
■ 出産後も女性が働き続けるために必要だと思うもの



⑩女性の活躍の推進のために

職業生活における女性の活躍の推進のために必要な情報について、最も多かった回答であり、唯一半数を超えた回答は「仕事と両立するための子育てや介護サービスなどの情報」で、女性が81.9%、男性が79.0%となりました。

■ 職業生活における女性の活躍の推進のために必要な情報

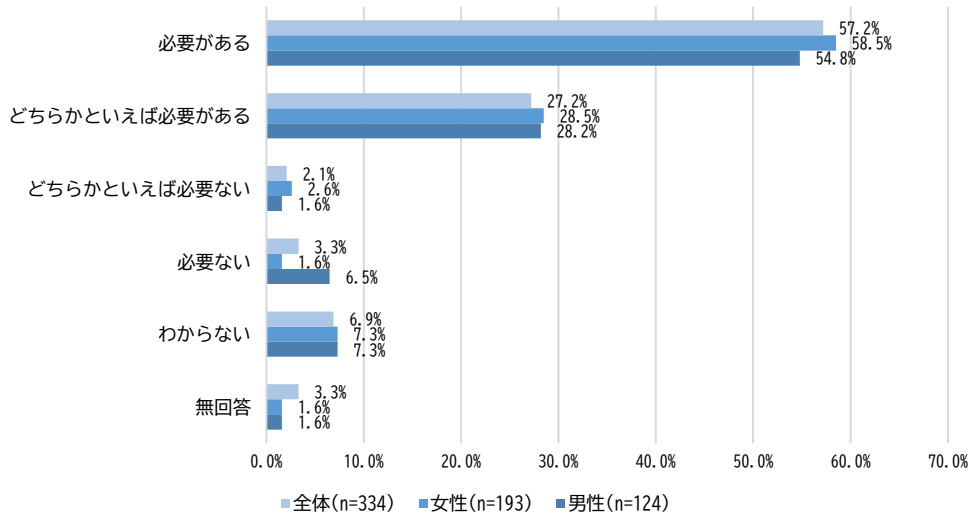


(8) 防災

①防災・災害復興対策での配慮

防災・災害復興対策において、男女の性別に配慮した対応が「必要である」、「どちらかといえば必要がある」と感じている人は、女性が87.0%、男性が83.0%となっています。一方、「どちらかといえば必要ない」、「必要ない」と感じている人は、女性が4.2%、男性が8.1%となっています。

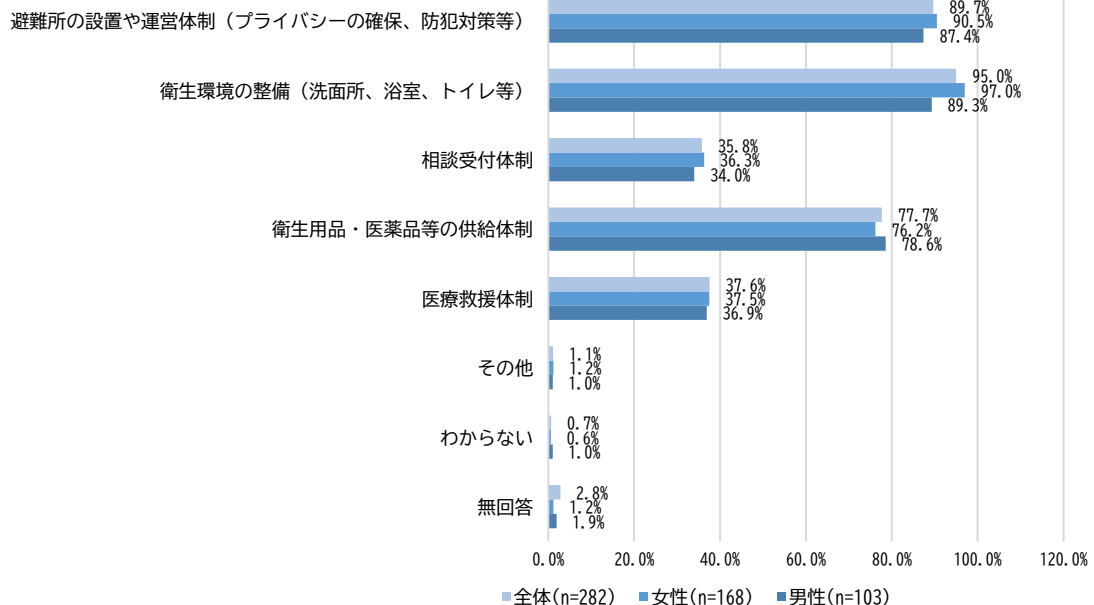
■防災・災害復興対策で、性別に配慮した対応は必要か



②配慮が必要な取り組み

前問で「必要がある」「どちらかといえば必要がある」と回答した人に、配慮が必要だと感じる対策について聞いたところ、最も多かったのは「衛生環境の整備（洗面所、浴室、トイレ等）」次いで、「避難所の設置や運営体制（プライバシーの確保、防犯対策等）」、「衛生用品・医薬品等の供給体制」となっています。男女の差が一番大きくあったのは、全体として最も多かった「衛生環境の整備（洗面所、浴室、トイレ等）」で、女性が97.0%に対し、男性が89.3%と、7.7ポイントの開きがありました。

■配慮が必要だと思う取り組みは何か

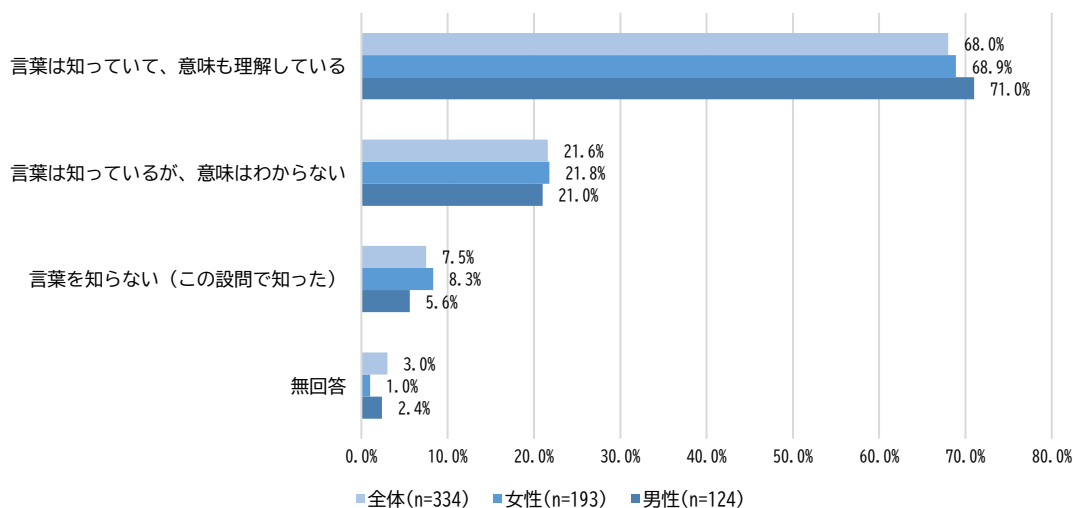


(9) 性の多様性

③ 「性的マイノリティ」についての認知

性的マイノリティという言葉とその意味を知っているかについて聞いたところ、「言葉は知っていて、意味も理解している」が68.0%、「言葉は知っているが、意味はわからない」が21.6%、「言葉を知らない(この設問で知った)」が7.5%となっています。男女の回答に大きな差はありませんでした。

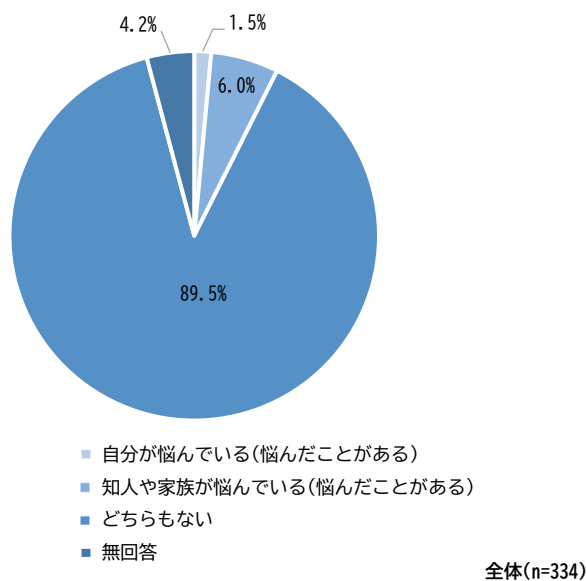
■性的マイノリティという言葉とその意味を知っているか



④ 身体の性や心の性、性的指向の悩み

自分や身近な人で身体の性や心の性、性的指向に悩んでいる人はいるかを聞いたところ、「自分が悩んでいる(悩んだことがある)」が1.5%、「知人や家族が悩んでいる(悩んだことがある)」が6.0%となりました。

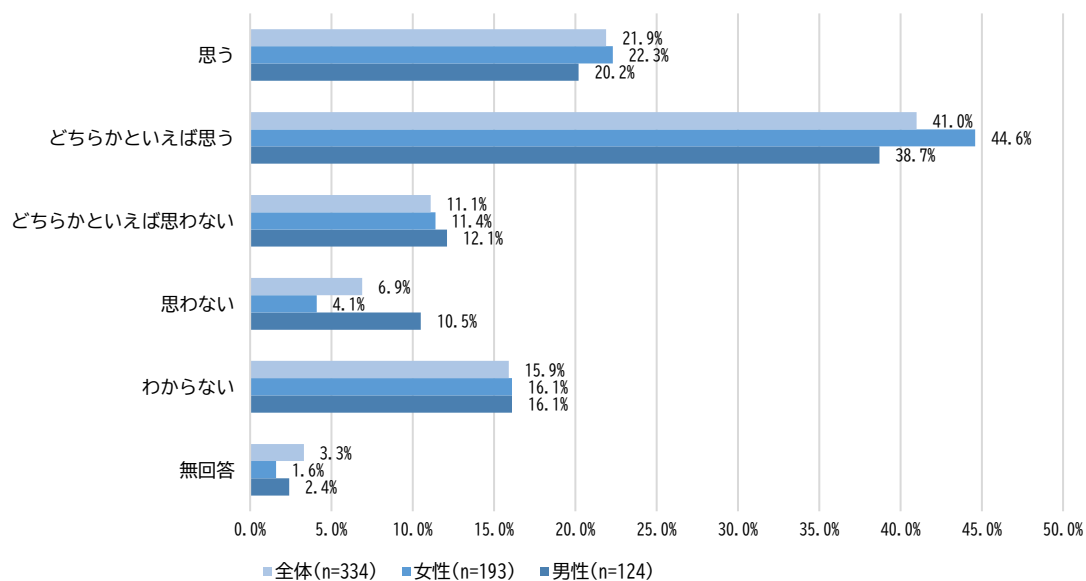
■自分や身近な人で身体の性や心の性、性的指向に悩んでいる人はいるか



⑤性的マイノリティの社会生活

今の社会は、性的マイノリティの人々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思うかを聞いたところ、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した人は、女性が66.9%、男性が58.9%。「どちらかといえば思わない」「思わない」と回答した人は、女性が15.5%、男性が22.6%となっています。また、「わからない」と回答した人は、男女ともに16.1%となっています。

■性的マイノリティの人々にとって生活しづらい社会だと思うか

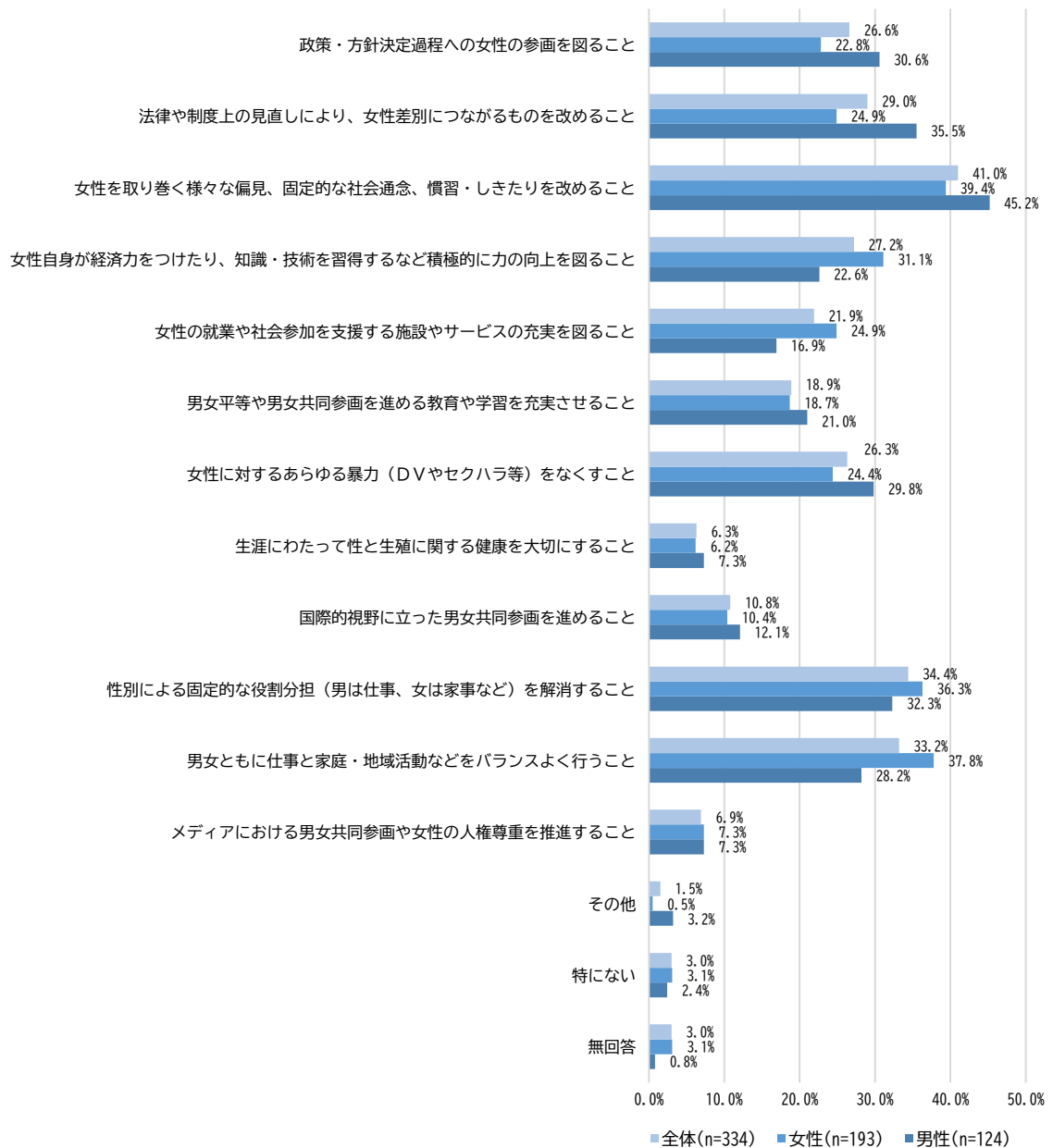


(10) 男女共同参画の取り組み

㊸男女共同参画の実現のために

男女共同参画社会の実現に向けて重要と思うことについて、女性の回答で最も多かったのは「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」、次いで「男女ともに仕事と家庭・地域活動などをバランスよく行うこと」、3番目が「性別による固定的な役割分担（男は仕事、女は家事など）を解消すること」となっています。男性の回答で最も多かったのは「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」、次いで「法律や制度の上の見直しにより、女性差別につながるものを改めること」、3番目が「性別による固定的な役割分担（男は仕事、女は家事など）を解消すること」となっています。こちらの問いは男女の回答に開きのあるものが多くなりました。

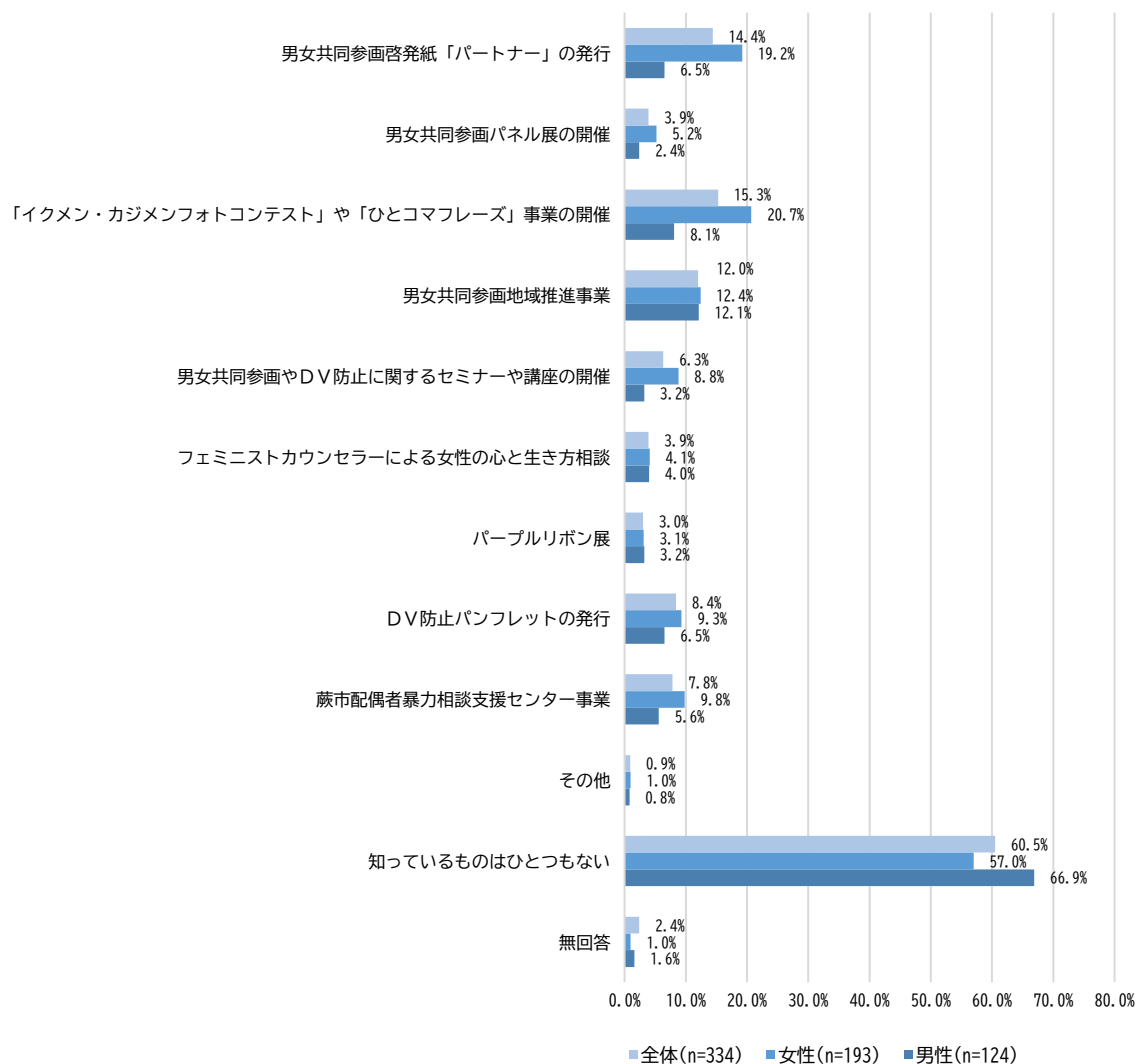
■男女共同参画社会実現のために重要と思うこと



⑦ 蕨市が行っている男女共同参画事業

蕨市が行っている男女共同参画事業について聞いたところ、「知っているものはひとつもない」が最も多く、次いで「イクメン・カジメンフォトコンテスト」や「ひとコマフレーズ」事業の開催、「男女共同参画啓発紙「パートナー」の発行」となりました。全体的に男性よりも、女性の関心が高いことがうかがえました。また、今後もさらなる周知が必要ということがわかりました。

■ 蕨市が行っている男女共同参画事業のうち知っているもの



(11) 回答者の属性

①性別

	件数	割合
女	193	57.8%
男	124	37.1%
無回答	17	5.1%
合計	334	100.0%

②年齢層

	件数	割合
18～19歳	2	0.6%
20～29歳	30	9.0%
30～39歳	42	12.6%
40～49歳	63	18.9%
50～59歳	51	15.3%
60～69歳	53	15.9%
70～79歳	56	16.8%
80歳以上	33	9.9%
無回答	4	1.2%
合計	334	100.0%

③職業

	件数	%
経営者・役員（自営業含む）	20	6.0%
正社員・正職員	107	32.0%
派遣社員	7	2.1%
パート・アルバイト・契約社員・嘱託など	68	20.4%
学生	8	2.4%
専業主婦（主夫）	54	16.2%
その他	7	2.1%
無職	57	17.1%
無回答	6	1.8%
合計	334	100.0%

(12) 自由意見

子育て支援

- ・産後の職場復帰には子どもを預ける（保育園等）必要があるのに、手続きが複雑で子どもの育児をしながら保育園を探したり、市役所へ手続きへ行ったりすることが難しい。もっと簡単にできるようにしてほしい。また、蕨市は小さく私の家もすぐそこが戸田市なので、市で保育園に入れるより戸田市の保育園が近いので、そこも考えてくれるとありがたい。保育園に入っていない子も手軽に一時お預りが利用できると嬉しい。そうすれば少しは職探し等のため動ける。子どもをもって育てて気づくことが多く、当り前の生活が少し面倒に感じることもある。コミュニティバスも有難いがベビーカーをもっての乗車がしにくい。手伝ってくれる人もいる時があるが、大体は一人でやらなければならない辛い。
- ・児童福祉課の子育てコンシェルジュさんとWEB面談できるようにしてほしい。
- ・「女性が社会貢献する機会を増やす為に、育児や子育ての第三者のサービス（延長保育など）の充実をはかる」という考え方がある。しかし、子どもの教育の基本は「家庭教育」であり、幼い子どもは母親と一緒に過ごす時間がとても大切である。その時間を通して、母親は子どもを理解し、どのようにしついたり、育てるかを考えることができる。母親への信頼の気持ちも子どもに生まれる。親から子へ、伝統文化が伝えられていく。子どもの教育を第三者のサービスにゆだねるということは極力さけるほうがよい。子育てにはお金がかかる。子育て家庭が充実したくらしができるように、税金の控除や職場での配慮（出張させない、残業させない、子育てボーナス支給）があるとよいと思う。3世代同居で、祖父母が孫の世話ができる環境整備支援があるとよい。

職場・企業

- ・職場では無理に管理職の女性の割合を増やそうとしたり平等を気にしすぎて、返って女性が大変だと思ってしまう。出産は女性にしかできないことなので、その後、働き続けたいか管理職につきたいかは、それぞれが決めることです。割合等を気にするのではなく自由に選択できることが重要なのではと思います。

人権尊重

- ・男女が生きていくには、それぞれ役割がありますが、男女同じ権利をもって生きていきたいです。
- ・P53（6）⑱の女性の人権について、買春、売春援助交際とあるが、だれかに強要されているのでなければ、男だけでなく女にも問題がある。風俗は職業選択の自由。これも強要がなければ問題なし。ヌードについても同様。それより盗撮や、それを投稿する人間の処罰を重くしてほしい。設問に入れる時点で女性の人権について勘違いしているのではないか。LGBTQについてはいいが、Tと一緒に考えてはいけない。ジェンダーレストイレなど話題になっているが女性にとって男性は自分より力が強い、性行為となれば傷付けられる恐怖がある。Tに関しては、なりすますることができてしまう。身体は男だが今日は女の気分でしたと言われてしまえば、そこまでとなってしまうと犯罪の温床となりかねない。埼玉県はジェンダレスなどに条例を作ったそうだが、「女性のなりすまし」などが出てくる方が女性の人権を侵害されかねない。また本当にTで悩む人も、なりすましが保護され増えてしまうと人種と思われる。それこそ人権がなくなってしまう。日本は性的少数者に対して差別は少ない。差別だ、やめろと言っている人ほどそういった性的少数者を見下しているのではないか。具体的にどういった差別があるのか。本当に困っているのは何なのか。活動家ではなく本人たちに聞いてあげるべき。
- ・仕事や生活において男性女性どちらも不平等に感じる事がない社会がこれから少しずつ良くなればいいと思う。男だから女だからと理由をつけて人が傷つく事なく自分がしたいように生きやすい環境を見つけ互いに尊重しあえるように一人一人が意識し窮屈に感じない世の中になればいいと思います。

家族・夫婦

- ・女性が家庭を守る為には、男性がもっと稼ぐべきと考えがあるが、そもそも女性の社会進出が普及したおかげで男性の収入が増えないと考える。女性が家庭を守るには男性の収入を増やし、その為には女性の社会進出を抑制する必要があると考える。このままでは日本は滅びてしまう。
- ・そもそも「イクメン」ということばが、性差

別だと思います。育児するメンズ→当り前のこと自分の子供を育ててでは「イクレディ」みたいに言うのか？仕事は夫、家は妻と、夫婦又は（パートナー）で決めたことで両方が納得しているなら、それはそれで認めることであり、差別していると決めることでもない。色々な形のパートナーや家庭があってよい。多様性が認めあえる社会（歳）であれば、高齢者でも子供でも誰でもすごしやすいと思います。

- ・結婚をして、女性が子供を出産して家庭に入り、子育て家事をして男性が働くという時代で過ごしました。今は、男性も育児休暇を取れるような事になっていますが、私が子育てしていた頃は、そんな事も何もなく、すべて女性がやって、男は働いてお金さえ稼いでくれば良いみたいな感じだったように思います。なぜ男は…女だからという考え方があるのか？ほんとうにおかしな習慣かと思えます。また、子育てが少し落ち着き、仕事をしたいと思って家事があるのでパートで働くしかなく、しかも年収 103 万以上だとか 130 万以上だとすべての扶養からはずれなければとか制限があり、女性が働く制限を感じた時代がありました。主人の扶養からはずれて働いた時もありましたが、やはり子育てと家事と仕事でイライラする事も増え、またパートに戻った時もありました。ゆとりがなくなってしまったのでしょうかね。男女平等の考え方は、人によっていろいろな考え方がある、今でも難しい問題のように思います。
- ・私達の世代の男性はワンマンで女性に対し見下して、上から目線の男が多いです。子供達夫婦は親の姿を見て育っていますので親のまねをする事が多いですが、これは何より女性に対する思いやりがない人間です。これから男女共にローンや育児は互いに協力して生活し楽しい人生を送ってほしいと心から願います。子供にとって仲の良い両親が何よりです。
- ・まずは家庭の中で仕事の分担、家族でよく話し合える、お互い助け合える環境が大切だと思います。

男女平等・男女共同参画

- ・私自身、女ですが、こうして声をきいてくださってうれしいです。役に立てば幸いです。歳は外国籍の方も多く、夜道が少し怖いです。男女平等において一番許せないのが男女の

体格差による暴力です。そういったことを起こさせない、もし起きたとしたら厳しく罰してくださることを願います。よろしく願いいたします。

- ・男女関係なく都合のいい時だけは男（女）という立場を利用して都合が悪い時は男女平等を叫ぶ人が多い印象を受けます。「男女平等」ではなく「男女同権」を個人的には目指すべきかと思えます。女性でも働ける男性と同じ給料をもらえる。昇進するチャンスも同じだけある。逆に男性は出産は無理だけど、同じだけ育休や親権を得る資格だってある。身体づくりがちがう以上、完全に「同じ」にすることはできないので、そんな必要はないでしょう。だから平等は無理でも、同じ権利を持って環境を作ればよいと思います。同じ権利を認めることは「性別のせいでの不利になることを減らす」ことの話で難しいことではないはず。「平等」はムリでも「同権」を目標とすれば「男女格差」も小さくなるのではないのでしょうか。
- ・最近の男女平等という言葉は女性を優遇する言葉に聞こえる。女性の働く機会が少ないというが、男性の様に色々な職種にはついていない。自分がやりたい仕事（思ったような仕事）に就けないことを性別のせいにしていても多くいるような気がする。性的マイノリティ（LGBTQ）に関しても今までそれなど注目されてこなかったのは、性的マイノリティによって差別されているということが多くなかったのではないかと。「自分が性的マイノリティだから」と言った被害妄想や一部の理解してくれない人がいるだけで、被害者意識を持ちすぎなのでは？と思う。人間である以上自分の全て」のことを相手に理解してもらおうなんて考えが甘すぎると思う。そういった人たちは他の人の全てを理解し、受け入れているのだろうか。そういった人程、他人への理解が浅く自分のことしか考えていないように感じる。
- ・「男女平等」や「男女平等参画」といった言葉が使用されることイコール差別がありますねという社会を表していますよね。こういうアンケートがあるのですから、男性側のアンケート、男女関係のないジェンダーレスのアンケートを実施することも必要なのではないのでしょうか。男女を差別もしくは区別した教育を受けた人が、男女差別は良くありませんと今の子供たちに教育しているのは、本当

- に差別ないということを理解した教育なの
 でしょうか。今の子供たちが社会に出る頃に
 日本の男女差別等が、また一段減るのでは？
 そのくらい人の受けた教育や考え方が変化
 するには時間がかかるでしょう。人口で言え
 ば男女の数がほぼ同じですから、色々な分野
 でも男女数が同じくらいになるように願ひ
 ます。女性が産休・育休がとれやすくなると
 同時に男性も産休・育休を取りやすくなる社
 会にしてほしいです。
- ・PTAやボランティアも男性が参加できるよ
 うにしてほしい
 - ・男女共同参画社会基本法についての、いつで
 も閲覧できる無料動画を配信してほしい。手
 軽にいつでも（時間が空いた時など）閲覧で
 きるから。
 - ・P59(10)㉗の事業について、ほとんど知り
 ませんでした。蕨市の公式HPトップのどこ
 からか移れるようになって良いと思ひ
 ました。コロナ禍前ですが、町会行事に子
 ども会代表として参加しました。婦人部会
 の手伝いで料理の準備や片付けをしましたが、
 女性のみが大人数で何時間も前から準備に
 時間を費やす習慣に疑問を持ちました。（そ
 の間、男性も何かしらの準備があるかもしれ
 ません、）今の時代、「婦人部」があることや
 婦人部の役割（接待など）も時代の流れに逆
 行している気がします。「婦人部」に関して
 は、町会の範囲内かもしれませんが、疑問に思
 ったので記載させて頂きました。
 - ・私が今迄、生きていた中では、男女平等、男
 女共同参画はあまり身近に無かったような
 気がします。もちろん子育てしながら仕事も
 したので、育児・家事と手助けがほしいと思
 った事は度々です。男性はなかなか手助けが
 なく、不満が、増したことはつらい思ひ
 ました。
 - ・男女間では区別なく違いを認める努力をする
 べきだと思います。骨格や臓器の違い、脳の
 働き、体力など男女に違いがあつてあたり前
 である。違うからこそ、男女間では補う、労
 わるという思ひやる気持ちが芽生えるので
 はないかと思ひます。
 - ・男だから、女だからといった考え方がある以
 上、平等には程遠いと思ひます。
 - ・自分の周りにLGBTQの方がいない（今まで出
 会ったことがない）ので、男女共同参画への
 理解を深めるために、機会があればLGBTQの
 方の話を聞いてみたいと思ひました。
 - ・長い会社勤務や町会、クラブ活動を通じ、世
 の流れが変わってきた事を感じ取つていま
 す。男女共同参画は必要だと思いますが男性
 より女性の方の意識が必要です。
 - ・男女平等をすすめることは、とても良いこと
 だと思います。ですが生物学上、男性と女性
 は違う生き物ですので、それぞれ得意、不得
 意はあると思ひます。そういった部分を考え
 ず全てを平等にしようとするのは良くない
 と思ひます。また、LGBTQについて、社会で
 認め合うことは大切だと思いますが、トイレ
 や更衣室の利用問題など、LGBTQではない人
 たちが、がまんすることは認め合うこととは
 ちがうと思ひますので、しっかりと整備した
 方が良いと思ひます。
 - ・法や理念的な問題よりも、それを運用する人
 間に問題が感じられる。人間側が理想におい
 ついていない。蕨市の「男女共同参画社会」
 についての活動を私は認知していなかった。
 宣伝が足りていないのではないか？これは
 個人の意見であるが「性産業」に就いて
 いる女性への偏見や差別が強いと感じられる。
 法的に認められているのならば、これは解
 消されるべきである。彼女らの権利拡充や
 支援を求む。女性の身体は女性自身のもの
 である。それを自由に行使する権利がある
 はずである。社会で議論が必要だ。
 - ・男女平等について、女性目線での意見や要
 望を様々なメディアで聞くことが多いが、
 かなり都合の良いように「男女平等」とい
 う言葉を使っているという印象を受けます。
 人間である以上、性による違いを変えるこ
 とはできないので、サポートできる制度や
 仕組みを作る、整えることは重要であるが、
 女性向けのそのようなサービスや制度が、
 男性からは「女性が優遇されている」とい
 う見方もできる。性問題は別として男女
 参画については、個人の力量による部分
 もあると思うので、キャリアアップできな
 いことを性別のせいだけにせず結論を出
 すべきではないと思ひます。（もちろん理
 由の一つではあると思うが）
 - ・男女共同参画セミナーに出席して驚きまし
 た。体験者の話を聞き、今迄、知らなかつ
 た事、現実に苦しんでいる人がいる社会に
 本人は抜けだしたくても、自分の意思が弱
 くDVに走る。私達は何が出来るか、どう向
 き合っていけば良いのか。
 - ・戦後、男女平等の大転換教育を受け、理
 念は理解するが実態はあまり変わっていないよ

うに感じていました。しかし、女性の海外旅行、留学等の増加、コンピューターの発達による転職の拡大等で世の中相当変化していると思います。しかし、G7の他国の状況を見るとまだ日本はやるべきことは多い感じで、これからも大変です。

- ・「男女平等」と言っても行き過ぎはいけない。「男子トイレと女子トイレの別をなくす」ことに女性は反対しています。女湯に性同一性障害の男性が入ってくるのも問題です。守るべき社会慣習・伝統というものがあるはずで

行政・施策

- ・今、社会人大学生として学んでいますが、LGBTQ+について興味を持っています。その人がその人らしく育ち、学び、働き、愛す事ができる街、蕨になるのが私の夢です。コンパクトシティだからこそそのステキなモデルシティになればと願っています。
- ・年収の問題から様々な問題が発生している為、派遣、パート、アルバイト等の年収、年収の制限を廃止し、極力正社員を増やす社会でありたい。様々な家庭の問題、暴力等、ひとり親の場合の状況の経済の支援の改善に取り組んでもらいたい。
- ・蕨市は市民に対して審議会等の女性割合をどの位までにしたいのか、また職員の女性管理職を何%までにするのかという情報が明らかにされていないと思う。また市民参加が一部の人間（古くからの住民→いわゆる頭のかたい人達）が占有しているように思えてならない。（市民参加が推進されていない気がする）まず、蕨市役所の中が男女平等なのか、市民に知らしめ役所（行政）が先行しているところをみせてほしい。市民意識調査が「今後の具体的施策を検討するための参考資料とする」とありますが、具体的施策が何であるのかわからないため、質問も大卒な感じがする。（答えが作為的で行政がみちびきたい方向に答えさせようといことが見えてしかたない）たとえば共同参画基本計画など具体的に策定したい計画等を示したほうがよい。ジェンダーフリーや多様性が言われている今において、はたして「男女」という言葉をつかうことは、どうなのでしょう？（男・女にあてはまらない場合は、この言葉自体が差別ではないですか？）行政がこの言葉を使うことについての見解を求める。

- ・女性専用トイレ、男性専用トイレ、それぞれがなくならないようにしてほしい。必要な身体的な性の区別で判断する事が犯罪防止につながる。
- ・まずは、教育からだと思います。なので時間はかかると思います。社会での取り組みはテレビなどで目にする機会はありますが、蕨市のPR活動は全く触れることがありませんでした。意識や制度を変えるのは難しいと思いますが行政ができるのは、まずは制度改革だと思います。女性が働きやすいように保育園の増設などの対応が早いことなどは感謝だだと思います。期待しています。
- ・社会的養育を必要とする児童に関わっています。お預りする児童の家庭では、特に母親自身が支援を必要とする状況が多くみられます。要保護児童の手前の要支援児童、要支援家庭（特に母親）を地域全体で見守っていく必要があります。将来担税力ある大人として、世に送り出していく責任は、今の大人にあります。せっかく生まれてきた命を社会全体で育てていく市になるよう期待しています。男女共同参画をより広い意味で捉え、こどもまん中社会の実現にもつなげて欲しいと願います。市長の所属・関連政党に関わらず市職員の方々の奮闘に期待します。
- ・男性側にも社会的弱者がいるので、極端に女性を優先した施策は採用しないでほしい。
- ・社会状況が私達の時代と大きく変わっておりますので、適当な回答が出来たかと案じております。これからの社会をよりよくするために大変御苦勞なさっていらっしゃいますこと感謝致しております。蕨市発展の為に頑張ってください。
- ・一にも二にも市役所から始めて下さい。
- ・LGBTQ、女性が守られるか心配。男性が女性トイレに入ってきたり、子供や女性が性暴力にあったり、女性のスペースに男性が入ってきたり蕨市は、その時にどのように対応するのか？外国人が日中、小さな子供を連れて歩いているが、保育園や小学校へ行く年齢の子供。親は働いていないのか？保険料、税金、外国人から納められていますか？蕨は年寄りが多い、今後どうなる。
- ・蕨市に、このような参画がある事を知りませんでした。ぜひ、積極的に取り組んで頂き、男女ともより良い暮らしになる事を願っています。

女性活躍

- ・女性議員をもっと増やして、女性の意見が反映されやすい社会になれば良いと思う。蕨市が行っている男女共同参画の推進事業のなかに「イクメン・カジメンフォトコンテスト」があるようですが、育児などは特に男親も行うべき、あたりまえの事であり、フォトコンテストを開催すべきものではないように感じました。

その他

- ・世代の相違がすごいのでむずかしい。
- ・ゴミ問題ですが、カラスがちらかすのでアミではなく、何か方法はないのでしょうか。要害通りのポンプの所がいつのまにか、ゴミ置き場となり通勤で毎日通るのですが、とてもきたないです。蕨の散策道路になっているのに、みにくいです。どこの地域もなやんで置いているのに、なぜあの場所に大量のゴミを出したり自転車の置き場になっているのでしょうか。お花でもうえたらいいのでは、子供達もポンプで遊べないですね。片付けた後もきたないです。何とかしてほしいですね。
- ・質問に対して、生活環境によって変わるのでは？
- ・時代と共に、日本人も全体的にレベルアップをする事は、大事な事だが人間社会で一番大事（大切）な事を考えれば、今、自分の「やるべき事が」自然と見えてくるのではなからうか。世界に目を向けるのも良いが、まずは、自分達の足元をしっかりと見ましょう。学歴・物ではないはず。考え方が昭和で申し訳ないですがね。
- ・自分は今、蕨市に住んでいて幸せに暮らしているが、もっと市が行っている事業など関心を持たなければと思いました。
- ・蕨市に住んで良かったと想える町にして行きたいと想っておりますが、最近の学校の雨漏り、犯罪が多い市等、本当なのかと案じております。市長さんには、まだ若いのですから、市民の為に良い町作りを心掛けて下さいね。
- ・風土的に旧来からの思想、風習（慣）が抜けていない様に感じます。
- ・良くわからない事が多くありました。
- ・男性、女性とはという固定概念無く生活しています。令和五年のこの時代に女性は〇〇するべき、〇〇であるべき等という概念を持つ世代は、やはり高年齢世代であり、本アンケートについては世代別に集計し、高年齢世代へ

の意識改革に注力するべきである。

- ・日本の政治家は男だらけで異常だと思う。学校のPTA役員は女ばかりでおかしいと思う。
- ・次回より、控えが手元に残る様、配慮願います。（必要とする者が、コピーでも良いが。）
- ・このアンケートは70才をすぎた私に送られてきても、子育ては終わっているので意味は無いと思いますが（PTA等の事）。
- ・85才になる私にアンケートが来ましたが、どういうお考えでしょうか。書くのが大変でした。
- ・私は80才を過ぎ、社会とは一線をおいています。私達の時代は今とはちがいますが、いつの時代も、らしさ、女は女らしさ、男は男らしさ、この言葉はいつの時代も通用すると思います。決して卑下するものでなく自分をわきまえると言う事だと思います。あまりにも自分が自分がと言う、また、ひっこみすぎではいけないが自分の今の地位立場を心がければ世の中、心配しすぎる事がないように思います。
- ・年を取りすぎました為、わからない事が多すぎました。もう少し世の中に関心を持って見て行く事にします。
- ・30代に入るとともに、独り身であることに徐々に生き辛さを感じるようになりました。社会全体として、ある程度の年齢になれば家庭を持ち、「人生の次のステップへ」という社会通念がまだまだ強いのだと思います。このことは男性よりも、むしろ女性の方が強いかもしれせん。「自分らしく生きる」ことはそう簡単ではなく、必ず周囲の社会を大きく受けてしまうことなのだなと感じます。難しいことなのかもしれませんが、「普通の生き方」でなくても、負い目なく生きられる社会で生きていきたいです。

※個人を特定するご意見は掲載を控えさせていただきます。

※明らかな誤字、脱字については修正させていただきます。



蕨市男女共同参画市民意識調査結果報告書

発行 令和6年3月

蕨市市民生活部市民協働課

〒335-8501 蕨市中央5-14-15

電話 048-433-7745

メール siminsit@city.warabi.saitama.jp